

あけましておめでとうございます。年が改まり、厳しい寒さの中にもすがすがしさが感じられる日々です。

2023年は卯年。ウサギは、広い視野で見る目と、遠くの音も聞き取る耳を持っているそうです。利用者様の生活全体を幅広く見て、ちょっとしたご要望も聞き逃さない。グリーンは、まるでウサギのように、今年も皆様の生活のお手伝いをしたいと思っています。まだまだ肌をさすような寒さが続きます。空気が乾燥し、感染症が流行しやすい季節でもあります。しっかり対策をとりながら、元気に過ごしましょう。

皆様にとって、幸多き一年でありますように。本年もどうぞよろしくお願いいたします！

あけましておめでとうございます

2023



Colors works

グリーンから  
ハッピーニュース発信！

ご本人だけでなく、ご家族やご友人との繋がりも訪問の醍醐味です。ご本人を取り巻く環境は千差万別。関わり方に正解がないからこそその難しさもありますが、ご本人や周囲の方々の生活が少しでも豊かになりますように。。そんな気持ちで向き合っています。今回は、ご家族との心温まるエピソードを2つ、特集でご紹介します。毎月恒例、ご本人らしさ溢れるお写真も一緒に楽しみください。



【前橋・M様】有料老人ホームで生活されています。週1回、外部サービスとして理学療法士が訪問しています。コロナ禍で、ほとんどご家族とは会えませんが、息子様からお手紙が届くのを楽しみに待っていらしゃいます。認知症があり、手紙の内容を覚えておくことが難しいため、何度も一緒に読んで、その度に幸せな気持ちを共有しています。ご本人と相談して、写真と直筆メッセージを息子様へ送りました。95歳のM様。ご自分の足でしっかり立ち、ご自分の手で美しい文字を書かれました。素晴らしいです！離れて暮らしているからこそ、ご家族を近くに感じられるよう、繋ぎ役になりたいと思っています。

※写真の掲載はご本人の許可を得ています。



【前橋・T様】ご主人と二人の娘様と同居しています。とっても仲良しのT様ご一家。脳出血の後遺症で右半身麻痺と失語症がありますが、ご家族と四人八脚でリハビリに励んでいます。昨年の夏、手指のリハビリや気分転換を兼ねて、長女さんへの誕生日プレゼント作り挑戦しました。色とりどりの端切れを発泡スチロールの輪に竹串で刺して、リース飾りを作りました。コツコツと根気強く進め、ついに完成。8月に20歳になった長女さんへ、サプライズで贈呈式と記念撮影会を行いました(家族愛溢れるT家。言わずもがな、全員出席)。長女さん、「もう20歳なんて憂鬱。」と思っていたのですが(笑)、思わぬ贈り物に感動していました。母から娘への素晴らしいエール…「20歳、まだまだこれからだぞ、頑張れ！」。昨年11月に、膝を傷め1ヶ月程入院されました。年末に退院され訪問を再開しています。リスタートは、グリーンの担当も含めると九人十八脚!? 大好きなプレステ再開に向けて、伴走させてくださいね。

(右)【前橋・H様】初登場！寒がり屋さんですが、ガッツ溢れるH様。近所の公園を經由するコースを歩いています。スマホの東海道五十三次アプリ(擬似的に東海道の旅を楽しみながら歩行記録が残せる)を活用していらしゃり、モチベーションを上手に維持しながら体力強化を図っています。11月に鮮やかな紅葉の下で写真撮影しました。良い景色を眺めながら歩くと、足取りが軽くなり、更に歩数が増えそうですね。スタイルがとってもいい！



【みどり・I様】毎年恒例の銀杏拾い。今年も、できました。美しい黄色に色づいたイチョウの木の下で、ポージング。まるで旅雑誌の表紙のようです。来年も一緒に秋を感じられますように。



【桐生・M様】お庭の散歩と写真撮影がルーティンです。今年も西洋柵の前で良い笑顔で記念撮影できました。暖かそうな服装で、防寒もばっちりしながら元気に屋外歩行しています。真っ赤な帽子は冬のトレードマークですね。今年もとってもお似合いです。



投稿コラム第29弾  
(前橋・K様)

## 『アイアム』

私の名前には、「亙」という字が使われている。父親が決めたらしい。父からは、「日の上で一番、日の下で一番、何でも一番」と、中小企業のキャッチフレーズのような由来を聞かされた記憶がある。

自分で調べたら、由来は諸説あるが、主に2つの解釈があることを知った。  
①上と下に挟まれた空間を回することをあらわした会意文字で、空間をぐるぐる回ることから「めぐる」「続く」という意味になった。  
②水などが渦巻く様子から「めぐる」という意味になった。

ほほう。父の真意は今となっては想像の域を出ないが、奥深い意味を持つ文字を選んでくれたことに、まずは感謝だ。

更に調べてみると、「めぐる」「続く」という意味を持つことから、「人との出会いを大切にする」「絶え間ぬ努力を惜しまない」「コツコツと経験を積み夢をつかむ」といった思いを込めて名付ける親が多いことが分かった。高尚である。

私は、自分の名に相応しい人生を送ってきただろうか。答えは、イエスだ。家族や同僚、友人との繋がりを大切にしてきた。仕事も趣味も全力で打ち込んできた。「何でも一番」にはなれなかったが。

私は昨秋、90歳になった。兼ねてから公言しているが、「人生、今が三分の一」だ。残り三分の二も、イエスと言いつけたい。